

桜ヶ丘だより

第 49 号

発行所

関高等学校同窓会

岐阜県関市桜ヶ丘 2-1-1

郵便番号 501-3903

電話 (0575) 22 - 5688

FAX (0575) 23 - 7089

〈校訓〉

進取
至誠
錬磨

関高百周年 記念事業に向けて

同窓会長
堀部 哲夫

100周年を迎えます。一世紀にわたり積み重ねた伝統の重みは言葉では言い尽くせないものがあります。

関高校では現在、同窓会を中心に関高PTA、職員が一体となり100周年記念事業に向けて動き始めております。この記念事業は、卒業生、在校生、学校関係者、地域の支援者様を含めたすべての人達にとっての一大イベントにしたいと考えています。

記念事業のタイムスケジュールとして本年は準備委員会を立ち上

げ、広く関係者の皆様の意見を拝聴し、よりよい方向性を探ってまいります。来年度には実行委員会を立ち上げ、皆様から頂いたご意見を参考に本格的な準備に入っていきます。

私見ではありますが記念事業のイベントには全国各地でご活躍の卒業生の皆様が関市に集い、懐かしい市内を散策し、学校を訪問してイベントに参加できるような企画を考えております。

具体的にはこの年の1カ月の期間を限定し、全卒業生を対象に式

典や祝賀会を開催、同時期に合わせて市内において市民講演会を主催、卒業生の美術作品「関高OB展」の発表、吹奏楽部の演奏、演劇部による公演の開催が考えられます。そして、市内の商店街の店主の皆様にも参加頂ける良い企画を期待しております。

開催の時期につきましては実行委員会のご意見が尊重されますが、6月、9月、10月開催の意見が浮上しております。6月は学校行事が少なく在校生の参加が容易であること、9月は関高祭と体育祭の同時開催が可能です。また10月は市内で「刃物祭り」が開催され、遠方の卒業生が帰郷しやすい時期かとも思われます。いずれにしてもメリット、デメリットはありますが貴重なご意見を待つところです。

できる限り多くの卒業生が関市

に集うことが記念事業成功に繋がると考えております。卒業生の皆様、クラス会や学年同窓会、部活のOB会開催の予定がありましたらこの記念事業に合わせて計画して頂きたいと思っております。

その他、図書館の整備、関高在学生の短期留学を支援する奨学金制度基金が候補に上がっております。

どの企画も卒業生の皆様の絶大なご協力が必要です。来年度、実行委員会が開催されれば経過を皆様にお伝えし、また貴重なご意見を拝聴する機会が増えると思います。

いつまでも皆様の心に残る記念事業になることを祈って止みません。

少子化の中の 関高校の姿

学校長
三尾 寛次

少子化と高齢化の進むことへの危惧が現実化し、高校教育においてもその影響は大きく、伝統校である関高校においても無縁のもの

ではないようです。中学校卒業予定数は、10年後岐阜県全体で約3,000人減少し、関市、美濃市、郡上市が含まれる美濃学区では250人の減少が見込まれています。関高校の1学年の入学定員は280人ですので、その規模の大きさは分かっていただけだと思います。

こうした中、県教育委員会はそれぞれの地域で魅力ある学校づくりを進めるため、県立高等学校活性化の基本方針「ブランドデザイン」を示しました。関高等学校は、

「選抜性の高い大学への進学が多い高校」という位置づけをされ、「グローバルリーダーの育成」「探究的な学習の推進」「個別の高度な学習ニーズへの対応」「キャリア教育の充実」といった教育を積極的に推進し、地域から求められる人材の育成を図ることとなっています。つまり、本校には大学入試への対応をひたすら進めるのではなく、大学入学後、卒業後を見越した社会のリーダーとして活躍する資質、能力の素地を高める教育が求められたところです。

本年度、平成26年度から3年間継続したSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定が3年間延長されました。大学で実施する探究型の課題研究を、1年生は地域の国際化や国際貢献の視点で、2年生は国際的な課題から実施をしています。英国の姉妹校ヘイドン校やベトナムの高校との交流も礼文島で実施する国際学術調査も継続していきます。研究者や実業家、地域の名士による講演会、大学の研究室や企業の研究所を訪問する等、この活動では、県下の

高校の先頭をしっかりと歩みで進めています。

その一方で、100年近い伝統が育んだ校風はしつかり次の世代に引き継げるよう教育活動を進めています。少子化の中で高校の在り方を考えていくとき、時代に求められる教育と守るべき教育のバランスをとっていくのが、関高等学校の教育の姿と考えております。同窓生の皆さまもぜひ、母校関高等学校の発展に期待と支援をお願いいたします。

